



桜の並木が続く尾根の中央部。



尾根付近にはたくさんのトンボが舞っていました。



涌出山の三等三角点(200m)は草の中に。



植樹された松がある尾根の最頂部(206m)。

つづら折りの遊歩道を登ると夏草の生い茂った尾根の最頂部。テレビの中継アンテナを巻いて登りつめると平坦な尾根付近に出ます。尾根には背の高い木々がなく、夏草が生い茂っていました。尾根の西端にはアンテナ施設、こんもりと盛り上がった最頂部には「久邇宮殿下御手植松」の碑と1本の松の木があるのみ。ここから尾根を東へ向かいます。

東西にのびた平坦な尾根を東へ。ここはお花見にもよさそうです。

東西にのびた尾根は広場のようになっていて、植樹された桜の並木が続きます。春にはお花見もできそうな場所です。一面の草で道らしきものは見つかりませんが、細長く平坦な尾根なので迷うことはないでしょう。山頂と思われる尾根の東端が見えてきました。

草に埋もれた三等三角点を発見！下りは東側の遊歩道へ向かいます。

尾根東端のひとときわ高い所が三等三角点のある山頂です。「保健保安林」の標柱がありましたが、三角点はどこに？あたりを探してみると夏草に埋もれた柱石を発見。ここから東側に下りの遊歩道が続いています。眼下には湖北の平野をまっすぐに貫く北陸自動車道が見えます。



忠魂碑のある広場から赤後寺へ。重文の観音様も拝観しましょう。つづら折りに下ると、大きな石碑の背後に出ます。遊歩道を離れ、石碑の前にまわるとそこは忠魂碑のある小さな広場になっていました。ここからは下りの遊歩道が2本。西の山腹に沿った道を下っていくと赤後寺の境内の裏に出ます。寺に安置されている2軀の観音様(重文)を拝観して帰りましょう。

日吉神社の鳥居の横が登山口「涌出山いこいの森」へ出発！「唐川」バス停から「赤後寺」の案内に従い、参道を進むと日吉神社の鳥居が見えてきます。境内の石段を登ると赤後寺。鳥居の左側に「涌出山いこいの森」の看板があり、ここが登山口です。寺の休憩舎の横を通り、遊歩道をつづら折りに登っていくと、背後に唐川集落の家並みが見えてきます。



日吉神社の境内に赤後寺があります。



鳥居横の「涌出山いこいの森」の看板。



忠魂碑のある山腹の広場。



涌出山東端の遊歩道から南東を望む。眼下に北陸自動車道が走っています。

湖国健脚倶楽部

涌出山 ● 高月町

散策気分でのんびり低山トレッキング。歴史が息づく古墳と観音の里を訪ねて。

湖北の山々の多くには戦国時代に築かれた城跡があります。小説やドラマにその名が登場するたびに、武将たちが対峙する陣の構図を実際の風景と重ねてみるのが密かな楽しみ。一方、戦乱の舞台裏では、信仰心の篤い村人たちが地元の寺の観音像を地中に埋め、戦火を逃れたというエピソードが残っています。高月町唐川からからの赤後寺の観音様もそのひとつです。

この寺を麓に抱く涌出山の周辺にはいくつもの古墳が集まり、発掘調査も進められてきました。一昨年には山頂付近で古墳の下から弥生時代中期の高地性集落跡が発見され話題に。標高200m程度の低山でありながら南北の見渡しがいいため、地元豪族の見張り台が置かれていたのではと推測されます。

赤後寺の「千日会法要」(毎年7月10日、この日にお参りすれば千日分の参拝と同じ功德があるという)を控えた前日、木々の緑が萌える涌出山に登ってみました。「涌出山いこいの森」として遊歩道が整備されているので、散策気分が気軽に登ることが出来ます。小さな山なのでのんびり歩いても2時間程度。高月町周辺の観音めぐりと組み合わせるのもいいでしょう。

DATA

山行日 / 07年7月9日
 天候 / 晴れ
 歩行距離 / 約2km
 総時間 / 約2時間
 難易度 ★ (初心者向き)

★ ひとくちメモ ★

● 赤後寺の観音様に会いたい
 赤後寺に安置されている本尊は、千手観音立像と聖観音立像の2軀。いずれも平安時代初期の作で、国の重要文化財に指定されています。厄を転じてご利益を授かることから「転利(コロリ)観音」とも呼ばれ、今も地元の人々の手で篤く守られています。本尊の拝観を希望する方は、境内の石段下に連絡先が記されているので、当番の方に電話で連絡を取りましょう(休憩舎に公衆電話もあります)。

▼ 拝観予約 (090-31647486)

Route map

● アクセス
 JR北陸線高月駅西口からコミュニティバス「高月観音号」(北回り線・青バス)で左循環の場合は約13分、右循環の場合は約24分、「唐川」下車。運行は右循環、左循環交互に1時間1本程度。詳しくは湖国バス長浜営業所(0749-62-3201)まで。
 ※10月改定あり

● 観光に関するお問い合わせ
 高月町観光協会
 ☎0749-85-6405

